



岡山市区づくり推進事業助成申込書
(地域活動部門)

令和3年1月19日

岡山市長 大森雅夫 様

フリガナ トヤマガツクジシホウサカイ
団体名 富山学区自主防災会
所在地 [Redacted]
連絡先 [Redacted]
フリガナ コバシ 仔助
代表者 役職・氏名 会長 小橋一郎

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名称	地域防災力の向上
事業実施小学校区・地区	富山小学校区
事業実施回数	新規 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続 6回目 / 【H28年度から】
課題	<ul style="list-style-type: none">●百間川の堤防決壊、操山山系での土砂くずれなど、人命にかかわる災害が想定される●避難所開設の実績が乏しく、地域での避難誘導・避難所自主運営のノウハウがほとんどない●高齢化率は岡山市の平均を上回り、災害時に自力では行動できない要配慮者への支援体制が不可欠
事業の目的	～ 逃げ遅れによる災害犠牲者を出さない ～ ・ 災害発生数日前からの早めに注意喚起 ➡ 早めの行動着手を促す ・ 避難情報発令後の速やかな避難所開設 ➡ 速やかに避難者受入れる ・ 全世帯向けに向けて素早く声かけ、誘導 ・ 要配慮者の事情に沿った適切な支援

- (1) 防災緊急連絡網づくり
- ・LINEによる学区から単位町内会への防災緊急連絡網
 - ・単位町内会はそれぞれの地域事情に沿った複数手段の全世帯向け連絡網
 - ・災害発生が見込まれる数日前からの防災緊急連絡発信
 - ★浸水・暴風対策、停電・断水等対策への早めの着手を促すことで、避難準備への迅速な移行を促し、逃げ遅れを防ぐ
 - ・【令和3年6月】防災緊急連絡 実地訓練
- (2) 災害対策本部設置手順・避難所開設手順の検討
- ・【開設キット】の検討
 - ①分担可能な作業ごとに細分化した手順書
 - ②運営に必要な備品
 - ★岡山市の避難所運営職員派遣の担当部局（会計課）と協議により、岡山市の避難所運営方針と整合を担保する
 - ・令和3年度事業で【開設キット】の内容検討⇒費用見積⇒次年度予算
 - ・令和4年度事業で手順書の印刷、備品の調達⇒【開設キット】の配備
 - ・【令和4年2月】机上訓練あるいは予備的実地訓練
 - ・【令和4年6月】総合的な避難所開設・避難者受入れ訓練
- (3) 避難所・単位町内会ごとの避難人数についてのすり合わせ
- ・避難所ごとの感染症対策を配慮した受入可能人数の把握
 - ・単位町内会ごとの要配慮者ランク別の要避難人数の把握
 - ・両者のすり合わせ、不足避難スペースの対策検討
- (4) 単位町内会ごとの声かけ・誘導體制づくり
- ・各単位町内会ごとに、それぞれの地域事情に応じて声かけ・誘導體制、自力での行動が困難な要配慮者の支援体制をつくる
 - 【令和4年の雨季に備えて、実際に誘導できるように！】
 - ・単位町内会での活動のすりあわせ・支援のため、単位町内会ごとに学区自主防災会との防災推進会議を年1回開催する

【感染防止対策】

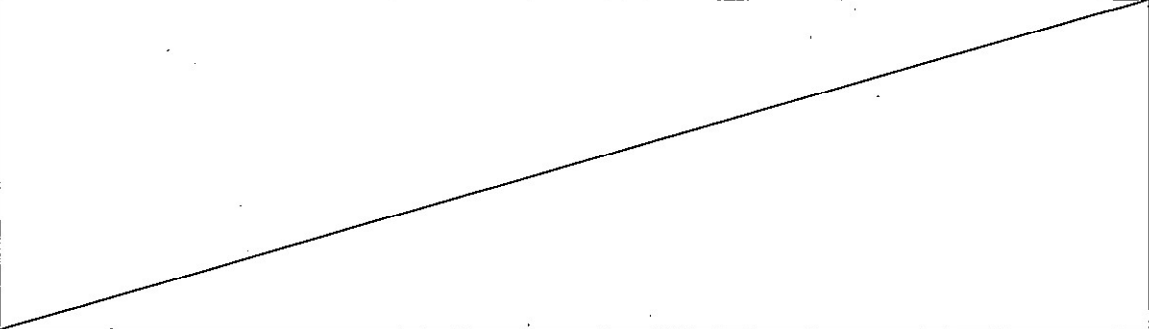
●会議

- ・無接触検温器に検温、チェックシートによる体調チェック
- ・出席者の名簿を記録
- ・多人数による会議を控え、20名以下となるよう会議方法を工夫

●イベント（防災訓練） 上記に加えて

- ・手洗い、うがい、アルコール消毒
- ・飛沫防止仕切りの設置
- ・フェイスシールド、衛生手袋、衛生キャップなどの着用

<p>期待される成果・目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●目標 <ul style="list-style-type: none"> 令和4年6月以降の出水期において、滞りなく <ul style="list-style-type: none"> ・住民に対して緊急連絡を発信し、適切なタイミングでの適切な行動を促す ・避難情報発令後は、素早く避難所を開設し、避難者を円滑に受け入れる
<p>企画などの工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●災害発生が見込まれる数日前からの防災緊急連絡 <ul style="list-style-type: none"> ★浸水・暴風対策、停電・断水等対策への早めの着手を促すことで、避難準備への迅速な移行を促し、逃げ遅れを防ぐ ●開設キットの整備（災害対策本部設置・避難所開設） <ul style="list-style-type: none"> ★その場に集まった誰もが容易に役割を分担できるように、手順を細分化し必要な備品をあらかじめ整備しておくことで、避難情報発令後速やかに避難者を受け入れる ★災害対策本部・避難所運営体制づくりの成果物として、【開設キット】を整備することで、体制づくりの目標がわかりやすくなり、実効性が向上が期待できる
<p>協働する団体等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富山学区連合町内会 単位町内会との連携・調整に関する協働 ・富山コミュニティ協議会 災害時の富山コミュニティハウス活用に関する協働 (学区対策本部拠点、学区自主運営の指定避難所) ・富山小学校 避難所運営に関する協働 ・富山中学校 避難所運営に関する協働 ・富山公民館 地域担当職員との協働 避難所運営に関する協働 公民館発行の「とみやまだより」による広報 ・富山消防分団 防災訓練・火災・災害発生時の協力・支援を得る ・富山電子町内会 学区内への広報 ・岡山市役所 防災研修への講師派遣、防災活動の協力・支援を得る（危機管理室） 避難所運営に関する協働（職員派遣担当部局） 小学校・中学校の貯水槽の災害時運用に関する協働（水道局） ・富山学区社会福祉協議会 要配慮者対策での協力・支援を得る ・介護、福祉施設 要配慮者対策での協力・支援を得る
<p>事業の情報公開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「とみやまだより」による学区全体へのPR ・電子町内会ホームページの活用 ・公共の広報機関を通して、富山学区での取り組みを広くPRする ・連合町内会町内会長会議での町内会長への連絡で意思統一を図る ・単位町内会による文書連絡

<p>学区地区への広がり</p>	
<p>前年度からの見直し拡充点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●申請団体を“富山学区自主防災会”に変更 <ul style="list-style-type: none"> ・従来、学区自主防災組織未結成のため、“富山学区連合町内会”が申請団体であった。 ・平成31年4月に“富山学区自主防災会”を結成したが、その直前に発足した有志による“犠牲者ゼロプロジェクト”が学区の防災活動を担ったまま、両者の関係が未整理であった。 ・“犠牲者ゼロプロジェクト”運営委員をそのまま“富山学区自主防災会”役員に移行し、学区防災活動の推進主体を“富山学区自主防災会”に一本化した ・声かけ・誘導の実施主体である単位町内会自主防災組織の活動を円滑かつ実効的に進めるため、その活動を“富山学区自主防災会”が、防災推進会議にてすり合わせながら支援する ・富山学区自主防災会”は、“富山学区安全・安心ネットワーク協議会”配下の組織として、学区内の各種団体との協働を図る ●マイ・タイムラインの住民への普及を、防災緊急連絡網による適切な行動の促進に変更 <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の活動成果である“マイ・タイムライン”の住民への普及を令和2年度事業として計画していたが、コロナ禍による活動自粛および“マイ・タイムライン”をわかりやくまとめることの困難さから、防災緊急連絡網により適切な行動を促すことに変更した
<p>次年度以降の予定</p>	<p>※今年度の事業を受けて次年度以後どのように活動を展開していくか、また資金の確保をどのように進めていくかをご記入ください。</p> <p>①次年度以後の活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【令和4年6月】総合的な避難所開設・避難者受入れ訓練 ・災害対策本部、避難所【開設キット】の配備 <p>②資金の確保について</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 次年度も区づくり推進事業を申請する予定</p> <p><input type="checkbox"/> () 年後には、自己資金を確保して地域の独自展開をしていきたい。</p> <p>資金確保の具体的な方策：</p>
<p>その他PRしたい点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●マイ・タイムライン <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の活動成果である“マイ・タイムライン”によって、災害時に危険の切迫度合いに応じて住民が取るべき行動、住民の行動を促す単位町内会が取るべき行動を明らかにした。 ・コロナ禍による活動自粛および“マイ・タイムライン”をわかりやくまとめることの困難さから、その住民への普及は延期としたが、令和3年度ではこの“マイ・タイムライン”に沿って、防災緊急連絡網により適切な行動を促すことで、早めの防災行動への着手→逃げ遅れの回避を目指す ・令和元年度の活動成果である“マイ・タイムライン”が、当学区の防災活動の指針となっていると言える

事業スケジュール (企画会議や反省会も含めてご記入ください。日程が未定の場合は月だけで結構です。)

月日	活動内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議 ・自主防災会定例会議 (防災緊急連絡基準検討) <li style="text-align: right;">・防災推進会議 (単位町内会ごと、随時)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議 ・自主防災会定例会議 (防災緊急連絡基準検討)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議 ・自主防災会定例会議 (防災緊急連絡訓練検討) ★防災緊急連絡訓練
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議 ・自主防災会定例会議 (開設キット検討)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議 ・自主防災会定例会議 (開設キット検討)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議 ・自主防災会定例会議 (開設キット検討)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議 ・自主防災会定例会議 (開設キット検討)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議 ・自主防災会定例会議 (開設キット検討)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議 ・自主防災会定例会議 (防災訓練検討)
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議 ・自主防災会定例会議 (防災訓練検討)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議 ・自主防災会定例会議 (防災訓練検討) ★防災訓練 (避難所開設 机上訓練または予備的訓練)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議 ・自主防災会定例会議 (避難所開設訓練検討)

収支予算書

収入

単位:円

項目	前年度決算又は 決算見込額	予算額	内容
岡山市補助金	11,000	105,000	
実施団体負担金	11,000	25,000	
参加者負担金			
協賛金			
寄附金、他収入			
収入合計	22,000	130,000	

支出

単位:円

項目	前年度決算又は 決算見込額	予算額	内容(必ず記載してください)
①消耗品費	2,000	10,000	事務用品(コピー用紙、インク)
②食糧費			
③印刷製本費	20,000	40,000	会議資料、活動記録資料印刷
④燃料費			・定常的な資料印刷 20,000円
⑤光熱水費			・開設キット検討資料 印刷外注
⑥通信運搬費			40部×100枚×単価5円 20,000円
⑦広告料			
⑧手数料			
⑨使用料・賃借料			
⑩原材料費			
⑪委託料			
⑫工事請負費			
⑬報償費			
⑭保険料			
⑮旅費			
小計(①)	22,000	50,000	
⑯新型コロナウイルス 感染症防止対策経費	/	80,000	アルコール消毒薬、非接触型体温計、 飛沫感染防止用仕切り板、マスクなど
小計(②)	/	80,000	
支出合計(①+②)	22,000	130,000	

◆概算交付の要否(いずれかに○をしてください。)

補助金(3/4)の概算払いを	希望する ・ <input checked="" type="radio"/> 希望しない
----------------	---

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください。

- 内容欄へは使用用途等を記入してください。
- 記入欄が不足する場合は、欄を追加してください。